

[056_05/06] 經濟學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4492911>

出版情報：經濟學研究. 56 (5/6), 1992-01-10. 九州大学經濟学会
バージョン：
権利関係：

序

原田實教授は平成2年1月1日、めでたく還暦を迎えられた。九州大学経済学会は心から祝意を表し、ここに記念論文集を刊行する運びとなった。幸いにして、教授と親しい外部の研究者から4篇の寄稿を得て一層充実したものになった。

原田教授は昭和30年、九州大学経済学部を卒業後、ただちに同大学院経済学研究科へお進みになり、研究者としての道を歩まれることとなった。その後、西南学院大学講師、助教授を経て、昭和44年4月九州大学経済学部助教授に復帰され、同49年6月教授として経営労務論講座を担当、同63年4月経営学科講座改編に伴い企業管理講座に配置替えとなり、現在に至っている。この間30有余年に亘る教育と研究を通じ、豊かな学職と暖かい研究指導によって多くの有為な人材を社会に送り出されるとともに、経営学研究に多大の貢献をされた。

教授の研究は科学的管理の父F・W・ティラーの批判的研究として始められ、研究領域は労働疎外論を基礎とした経営労務論、経営管理論の基本的概念の解明、生産管理論、人間関係論、賃金構造論、日本的労使関係論の批判的研究、現地調査を踏まえたE・メイヨー研究史の跡付け、さらに経営労務、経営管理の現代的展開としての現場管理、参加的管理、職務評価、ME化、労使関係の現実の解明などきわめて多方面にわたっている。経営学の基礎的概念の精緻化をはかりながら、たえず現実の企業経営の動きに目を向け、最先端の研究の成果を理論化していくというのが、教授の基本的研究姿勢であり、その成果は今や学界の大きな財産となっている。

教授は、学内行政においても評議員その他の要職を歴任され、我が学部及び九州大学の発展に大きく寄与された。学外にあっては、日本経営学理事、日本労務学理事、経営哲学学会理事および九州経済学会の幹事など多くの学会活動を通じて学問研究の発展に寄与されるとともに、福岡県地方労働委員会公益委員、福岡労働基準審議会会長の役をつとめられるなど、社会活動の面でも活躍されている。

御還暦とはいえ、教授は益々お元気であり、学問への情熱を燃やしておられる。ここに教授の還暦記念論文集を編むことができたことは、誠に慶ばしい限りであり、教授の一層の御健康と御活躍を祈念する次第である。

平成3年7月

九州大学経済学会長

児玉正憲